

## 令和2年11月 総合教育委員会 会議録

■日時 令和2年11月5日 16:30から17:45

■場所 福祉センター3F 中ホール

■参集範囲

壬生町長

教育委員 帯刀教育長、湯澤委員、宮島委員、鈴木委員、熊谷委員

三校学校長 袖山南小校長、堀米北小校長、高山中学校長

事務局 福島事務局長、清水局長補佐、松島こども支援係長、高野公民館長、寺沢社会教育係長、久保田文化財保護係長、前田こども家庭総合支援室係長

### ◆町長あいさつ

前回の会議で、新型コロナウイルスでこどものやれる範囲が狭くなっているというご意見をいただいてから半年たっているがなかなか良くならない。この地域では9月以降感染者は出てはいない。学校では大変なこともあると思うが地域のコミュニティーの核は人と人との繋がりではないかとコロナを通して思う。この様な状況の中で中核を担っていくのは教育の現場であると思うので、できないのではなく、やれる方法を考えて行くことが大事だと思う。運動会や小原ヶ丘祭をコロナ禍で実施していただいた、これからの時期流行が心配されますが、ぜひ皆で元気を出して、子どもたちの健やかな成長を促せるような話し合いが本日できると良いと思う。

### ◆高森町のキャリア教育について

高森町のキャリア教育という冊子を中学校で作っていただきましたので各校長先生に内容を説明していただき、キャリア教育の在り方や町が目指すこども像に向かってどの様に進めていくのか話し合いができればと思います。

(高山中学校長)

町づくりプランの将来像の主体的な学びを実現するにはキャリア教育の推進が必要であると考えている。総合的な学習の中で主にはキャリア教育内容を中心に実施をしていく。キャリア教育の推進に当たり、まず3校でキャリア教育推進委員会を発足した。本年度中学校にキャリア教育推進リーダー教員の設置をし、3校一貫した9年間のキャリア教育推進環境を作っている。

キャリア教育推進委員会は3校と教育委員会も入ってもらい連携を行っている。先日、しごと☆みらいフェアを行った。教育委員会と産業課もフェアに協力していただき大変助かった。非常に良い連携ができていると思う。

委員会としてめざすこども像を「なりたい自分への挑戦」とした。資料「あ〜お」を目

指したキャリア教育を進めていきたい。

中学校のキャリア教育としては、キャリア教育を表す言葉として自分探し、自分磨きがあり、キャリア教育の柱と考えキャリア教育を実施している。

総合学習の中で月に1度、地域応援隊の活動をする事になっていますが、コロナの関係で中々実施できなかったが、先日、柿の収穫の手伝いを行った。この活動を1年通して行って行きたい。先ほど話をしたがしごと☆みらいフェアを行った。今、3年生は町内の竹を使った活動を行っている。町にご協力いただきながらキャリア教育を進めている。

(袖山南小校長)

総合的な学習の時間として、本年度から「ふるさと高森で学ぶ、地域を知る」という考えで進めている。1学期がコロナ影響で思うように進んでおらず地域学習や北小との交流もできなかった。その様な中ではあるが今、市田柿に挑戦している。農家が少なくなっているが生産量をキープできている市田柿の仕組み等の学習や文化財マップを活用し探検を行うこともやっている。あんしん市場の見学でかかしづくりも行った。地域の学びを大切にしている。災害に対しても学習し、段ボールベッドの製作等を行った。昨年は収穫祭での野菜販売も行った。桜の学習も行っており桜のしおりを観光客に渡そうと準備しましたがコロナで渡せませんでした。桜も老木になり20年後に向けてどうしたらよいか考える学習も行えれば良いと思っている。地域学習に力を入れる中で自己肯定感を高め、中学に繋げていくのが大切だと思う。みらい懇談会について高森のすごい人を見つけようというテーマで進めている。

(堀米北小校長)

中学の自分探し自分磨きに繋げるよう、ありがたい自分、なりたい将来を見据えて今こうありがたいという意識を高めていけたらと思っている。子どもたちが今ある力で、状況に対して適切に対処できる事を磨いていく事が大切だと思う。

みらい議会に向けて提案を行うのに、地域を知ることが必要だと思う。地域の事を学ぶだけではなく他と比較して状況を把握する事でほんとの地域を知ったことになる。それを踏まえて、子どもの考えでできそうなことを提案していきたい。各学年でどんな力をつけていけば良いのかの考えを捉え直して進めていきたい。今、町探検を学年により範囲をきめて行っている。各学年によりできる範囲で広い範囲で地域に係れるような学習をしている。

(壬生町長)

良い方面の話は出てきているが課題はないのか。

(袖山南小校長)

総合的な学習の時間の時数が足りない。学級数が多いので前向きなクラスとそうでない

クラス活動に差が見える。当校の課題なので来年度手を入りたい。

(壬生町長)

学級数の話ならば中学校もクラス数は同じではないのか。中学校の1、2学年で小学校にこうして欲しいという提案をしても小学校で対応するのは難しいのか。

(高山中学校長)

中学は学年主体で内容をきめて動いているのでその問題はないが小学校は学級で考えているそれを崩すのは難しいと思う。

(袖山南小学校長)

小学校は学級単位の方が動きやすいし、学級ごとのやり方も尊重したい。学年で広いテーマを決めて動くことできると思うので考えたい。

(壬生町長)

北小は学年でテーマを決めてやっているので中学に繋げ易いと思うが。

(袖山南小学校長)

南小は学級で全体の方向性は理解してもらっていると思うがやっていく中で題材が違ってしまうことがある。

(堀米北小学校長)

実際、子どもたちが状況に直面してそれに能動的に対応するのは非常に時間がかかる。いろいろなものを入れていくことが子どもたちの意欲が高まるかと言えばそうではないと思う。1つのことを突き詰めた方が、意欲が高まると思う。キャリア教育の難しさはある。

(壬生町長)

1つのことを突き詰めていくことも良いと思う。お米をつくることが、生徒がほんとのやりたいことなのか疑問に思う。子どもが農業の担い手が少ないという提案を受けるが、将来農業をやりたい子どもは少ない、農業をやりたい柿や米をつくるのなら良いと思うが親は農業をやらせたいとは思っていない場合がある。お米の育て方や柿の作り方を学べば良いというのではなく、さまざまな機会をつくり、興味のあるものの意識を高められるように地域等を交えて内容を考えてうまく繋げていかないといけないと思う。

中学生がPVをやりたいと言いました、役場職員がやらせましょうという事で予算をつけました。これってある意味押しつけで、体験としては良いと思うが、本来は子どもが自主的にやりたい事を検討した上でやらないと、やらされている感は強いと思う。今回もそこに時間を掛けてやらなかった事は先生方にも負担を掛け反省すべき事だと思うが、来年同じことを繰り返さないためにもどうしていったら良いかを検討する必要はあると思う。

来年、同じことにならないように学校からも提案して欲しい。地域を探索すれば生物の学習ができるような地域の学習を具体的にできるような提案をして欲しい。

町づくり懇談会で、この地域は働く場所がないと親が言う場面が多い。みんなが働いているのになんていうことを言っているのだと思う。キャリア教育の内容を吟味していただき必要な予算を学校側から要求をして欲しい。ICTも学校からこうしたいと言うような提

案をして欲しい。

(袖山南小学校長)

予算立てる12月の段階では来年度の課題やそれに対する活動の方向性が決まっていないので、自由に使える予算を設定していただき、結果使用しなかったらお返す方法はどうか。

(壬生町長)

予算を立てておいて使わないという話はない。枠で付けましたという話は議会にも説明ができない。

(湯澤職務代理)

学校にいただける予算を教科毎に分配する事をやめたことがある、チームを作ってやりたいことを考え予算も提案するようにした。挑戦してみると良いと思う。いらぬものを買わなくなり予算の執行もスムーズになった。

(壬生町長)

この先生は利用するけどこの先生は利用しないという備品は買わない。ボランティアでいろいろやってもらう事も無理があるので必要な経費は積み上げてもらう。学校に役場の職員を貼り付けることを考えている。いろいろな活動を相談する体制をつくりたい。

(湯澤職務代理)

9ヶ年のカルキュラムができてとてもすごい事だと思う。校長だけががんばっても職員の意識が高くならなければ意味がない。先頭に立って夢を描けるような職員が1人でも出てくると良いと思う。